

## 綾瀬市立綾北小学校

研究テーマ：「生き生きと学び合う子」～一人ひとりが学ぶ楽しさを感じる授業を目指して～

### 1 実践の目的

綾北小学校の児童は、与えられた課題に対して、一生懸命取り組む児童が多い。だが、疑問をもったり、自ら調べたりする児童は少ない。自分の考えを伝えたり、書いて表現したりすることに苦手意識をもっている児童も多い。そこで、小学校を卒業するまでに目指す児童像を設定し、日々の授業を行ってきた。しかしながら、綾北小学校の児童の実態として、個別の指導や支援を要する行動が多く見られるという状況であった。裏を返せば、子ども達の実態に合った授業ができていないという現状にあるように思われる。さらに、そのような行動が見られると、教師側は、指導を繰り返すことになる。そうすると、児童は、「怒られた」と感じ、教師との心の距離が離れていってしまい、教師と児童との間に溝が生まれてしまう。この現状を打開するために、NPO授業づくりネットワーク理事長である石川晋先生を校内研究の講師として本校に招いた。石川先生から、「まずは教師と子ども達との関係づくり」「わくわく・楽しいと感じる授業」を目指したらどうかとご助言いただいた。「学力を上げよう」「指導法をそろえよう」とすると、教師側も苦しくなってしまう。子どもも教師もお互いに楽しい授業をすることで、関係をつくっていくことをまずは行っていく。そのベースを構築することができたら、教科の本質を教えることができるように研究を進めることとした。そのため、今年度は今まで目指してきた6年生像の3本柱

- (1) 一人ひとりが学ぶ楽しさを感じ、進んで学ぼうとする姿
- (2) 自分の考えをもって自分らしく表現

したり、物事に取り組んだりする姿  
(3) 友達と関わり合うことで学びを深めながら困難に立ち向かう姿

このうち、(1)「一人ひとりが学ぶ楽しさを感じ、進んで学ぼうとする姿」の実現に焦点を当て、研究テーマの副題を～一人ひとりが学ぶ楽しさを感じる授業を目指して～と定めた。

### 2 実践の内容

#### ① 研究授業

今年度も教科・領域は国語科「読むこと」を単元に設定し、全クラスが研究授業を行った。また、今年度の校内研では、授業を通じた児童と教師の関係づくりも大きなテーマとしていた。単元を通して身に付けさせたい力を育成するための課題・活動が児童の実態を踏まえたものになっているかを考え、日々の教師の見取りと関係づくりによって、なかなか授業に向かえない児童が少しでも楽しいと思える授業にしたいという願いをもって研究授業を行った。

【3年】まいごのかぎ  
わくわくポイント

- ☆ダウトゲームをしながら主人公の人物像に関わる文章に関心をもたせる。
- ☆他に人物像に関わりそうな文章をみんなで探す。

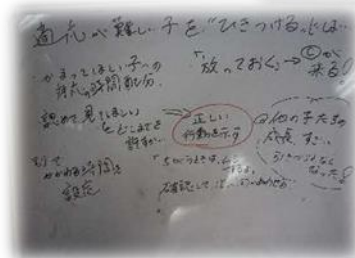
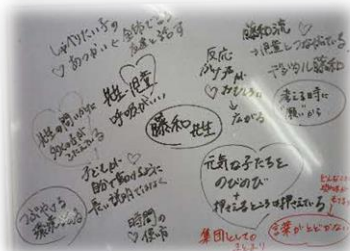




45 分間座って授業を受けることが難しい児童も在籍していることを考え、主人公の行動を動作化して体を動かしながら心情に迫ったり、自身の考えをまとめる場面では「友達に相談する」「ノートを見に行く」など自由に歩き回ることも許容したりして、児童が安心して学習に向かえるように考えられていた。

## ② 協議会

これまで綾北小学校が行ってきた協議会では、教師の発問や学習課題、児童の活動について話し合うことが多かった。これらも授業を改善していく上で重要なことではあるが、気を付けないと授業の粗探しのような時間になってしまったり、経験年数の少ない教師が意見を出しづらくなったりする可能性もある。今年度は、石川先生や日本学級経営学会(JACM)理事松下崇先生にご提案・ご教授いただき、協議会のもち方をいろいろ体験することができた。どちらの先生も、経験や年齢に関係なく全ての先生が意見を言いやすいようにすること、授業をした先生が明日からまた授業を頑張ろうと思えることを大切にしていた。



## 3 実践の成果と課題

全クラスが研究授業を行ったことにより、全学年の児童の様子やそれぞれの学年の先生が児童の実態に応じてどのような工夫や手立てを取って楽しさが感じられる授業にしようとしていたかを見ることができた。単元が同じでも、それぞれの先生の想いや児童の反応によって、学年間でも授業の展開に違いが出ていたのも勉強になった。また、特に前向きに授業に取り組めない児童がいる学年の授業を参観することで、そのような児童に担任の先生がどのように声をかけたり、かけなかったりしているか見ることができたのもとても勉強になった。先生方から「〇〇さんがこんなに授業に向かえるなんて」と驚く声も聞こえ、普段個別に支援が必要な児童が頑張る姿を見ることで、学級経営や普段の担任の児童との関りが授業に向かう姿に繋がっていることを改めて実感することができた。

様々な協議のもち方を経験する中で、授業者の悩みや葛藤を共有したり、和やかな雰囲気それぞれの思いを伝え合ったりすることができた。授業の粗探しではなく、先生方のモチベーションの向上や課題や悩みを共有しチームで支え合っていく雰囲気を作っていく協議会になっていると感じることができた。

研究が、授業改善ではなく少し学級経営に寄っているところがある。また、学ぶ楽しさを感じる授業のための手立てが多様であるため、授業検討や協議の時に焦点が定まりにくいことも課題であると感じた。

#### 4 今後の展開

石川先生は、来校される日は1日各学年の児童の様子を見たり、相談があったクラスで授業をしてくれたりしている。その上で、他に講師をしている様々な学校の子どもの様子と照らし合わせながら綾北小学校が抱える課題や児童との関わり方についてご指導して下さった。また、楽しい・わくわくとはどういうことなのか、ただ伝えるだけでなく私達綾北小学校の職員で答えを出していくよう背中を押してくれている。来年度も引き続き石川先生に伴走していただきながら、学ぶ楽しさを感じられる授業を目指していきたい。